

尚絅学院大学実験動物に関する自己点検・評価報告書（2013年度）外部検証報告

本学は、実験動物に関する自己点検・評価報告書（2013年度）に基づく外部検証を、以下の通り実施した。

日 時：2014年8月8日（金）14:05～15:20

場 所：尚絅学院大学内応接室Ⅰ、動物実験室

出席者：本学動物実験倫理委員3名、外部検証委員1名、事務担当1名

内容

1. 実験動物に関する自己点検・評価報告書（2013年度）（以下、報告書）と関係資料の検証

* 報告書に基づいて、記載事項および関連書類の点検、検証

- ① 書類名称の不一致(不統一)が指摘された。
- ② 実施状況 「2. 動物実験の実施状況」については、詳細な記載がなされている。
- ③ 実施状況 「3. 安全管理を要する動物実験の実施状況」については、現在は実施の予定がないが、動物の飼育室からの逃走を防止するためのネズミ返しを設備することで飼育が可能であるとの指導を受けた。
- ④ 実施状況 「4. 動物実験の飼養保管状況」については、詳細な記録がなされている。
- ⑤ 実施状況 「5. 施設等の維持管理状況」については、温度、湿度記録を提示して報告したところ、良好な環境であるとのコメントを得た。
- ⑥ 実験動物の屠体処理方法についての質問に対して、当学では、動物飼育を開始してからの年数も浅く、使用匹数も少ないので、現在はフリーザー内に冷凍保管しているが、処理受託先を検討している旨返答した。

る。

2. 動物実験室の現地視察

* 動物実験施設に案内し、入室方法を説明した後、動物実験室と動物飼育室を案内。

- ① 動物実験室内に「動物実験施設利用の手引」および「緊急時対応マニュアル」を常備するように指導があった。
- ② ラットの飼育にステンレスワイヤーケージを用いることによるラットへのストレス防止策についての質問に対して、フラット面の金網床を用いること、さらに成長に合わせた金網のメッシュの大きさを使い分けていることを説明した。

3. 講評

動物実験室内に緊急時の対応マニュアルと緊急連絡体制の掲示、「動物実験施設利用の手引」について名称統一をすることの指摘以外は、概ね良好な管理体制であり、記録も適切に保存されているので問題ないと判断するとの講評を頂いた。

以上

なお、上記の指摘を受けた点については、迅速に対応し、必要な修正・設置を完了している。

2015年3月25日